

### 3 長野県立大学

#### (1) 概要

所在地	長野市三輪8-49-7
学長	金田一 眞澄 (初代学長、H30.4.1~)
敷地面積	40,249.14 m <sup>2</sup>
建物面積	27,113.48 m <sup>2</sup>

#### (2) 学生数

(平成30年5月1日現在) (単位:人、%)

区分	総定員 (A)	在学者数					充足率 (B) / (A)
		1年	2年	3年	4年	計(B)	
グローバルマネジメント学部	170	175	—	—	—	175	102.9
グローバルマネジメント学科	170	175	—	—	—	175	102.9
健康発達学部	70	72	—	—	—	72	102.9
食健康学科	30	31	—	—	—	31	103.3
こども学科	40	41	—	—	—	41	102.5
計	240	247	—	—	—	247	102.9

#### (3) 教職員数

(平成30年5月1日現在) (単位:人)

学長	教授	准教授	講師	助教	助手	事務職員	計
1	26	23	8	5	6	44	113

#### (4) 教育課程内容

学 部	学 科	主 な 内 容	取得できる 免許・資格
グローバル マネジメント 学部	グローバル マネジメント 学科	<p>○グローバル・ビジネスコース 経営学、経済学、会計学、法学などの企業経営に関する知識を修得し、現代のビジネスには不可欠な「グローバルな視野」で組織を動かす、物事を変えていくマネジメント力や実践力を養成。</p> <p>○企（起）業家コース 起業、事業承継、第二創業に関する知識を修得し、広い視野と柔軟な発想により、社会や地域の課題を解決するための新たな事業を立ち上げる構想力や実践力、起業家マインドを養成。</p> <p>○公共経営コース 行政組織や地方自治制度などの公共経営に関する知識を修得し、地域課題を解決するための企画立案力や実践力を養成。</p>	
健康発達学部	食健康学科	栄養学を中心として、食物や人体に関する専門知識・技術を修得し、エビデンス（科学的根拠）に基づき、人を対象として栄養マネジメントを行うことができる実践力を養成。	管理栄養士国家試験受験資格、栄養教諭1種免許、栄養士
	こども学科	大学での学びを通して、新たな保育の創造や保育・子育ての課題解決を行うことができる専門性と実践力を修得し、将来の保育・幼児教育のリーダーとなる人材を育成。	保育士、幼稚園教諭1種免許

#### (5) 地域貢献活動

##### ア 産学官連携の取組

市町村、県及び企業と連携し、互いの長所を活かしながら地域におけるソーシャル・イノベーションを創出するため、各機関との積極的な関係づくりを進めた。

##### ○産学官連携の主な取組

地域	取組内容	効果・今後の展開
長野市 など4市	包括連携協定の締結（長野市（7月）、飯山市（9月）、千曲市（10月）、中野市（3月））	地域課題の解決に向けた連携事業の実施
木曾地域 など	県及び日本ユニシス㈱と「ソーシャル・イノベーションの促進に関する連携協定」の締結	IT 技術を活用した地域課題の解決
小布施町	「ウォーキングバイシクル」(立ち乗り式電動アシスト付き3輪自転車)を活用した取組 (小布施町、オムロン㈱、片山工業㈱と協働)	日常生活や観光、健康増進などでの活用を検討
全県	県内金融機関等と連携し、「SDGsセミナー」を3月に県内3か所（長野市、飯田市、木曾町）で同時中継開催（参加者：120人余）	SDGsの県内企業等への浸透促進

このほか、長野県経営者協会などと「信州ITバレー構想」について知事に申し入れを行った。

なお、県及び市町村、企業等からの相談等件数は、1年間で延べ500件を超えた。

#### イ 地域連携の取組

21人のアドバイザー・メンバーと4人の地域コーディネーター（北・中信、北信、東信、南信）を委嘱し、その知見とネットワークを活かして、地域づくりの支援を行った。

#### ○地域連携の主な取組

地域	取組内容	効果・今後の展開
飯山市	飯山市、地元若手経営者と連携し、「グッド・ビジネス・ミーティング」を開催（4回）	飯山地域での新たなビジネスの展開
長野市	「戸隠竹細工ブランド化推進事業」をチーフ・キュレーター、アドバイザー・メンバーが支援	伝統工芸の戸隠竹細工のブランド化
中野市	中野市、本学学生と連携し、「連携創出ワークショップ」を開催（2月）	大学と市との連携事業の創出
全県	県内全てのワーキングスペース（42か所）に声を掛け、「CSIオープニング・イベント」を開催（8月）	地域づくりの拠点となるワーキングスペースとの連携

#### ウ 学びの場の提供

地域におけるソーシャル・イノベーションの担い手を養成するため、本学教職員等を講師として講座を実施するなど、県民や学生に多様な学びの場を提供した。

#### ○学びの場の提供の主な取組

取組項目	取組内容	効果・今後の展開
「信州ソーシャル・イノベーション塾」（11/10～3/2）	全6回の講座、受講19人（塾長：チーフ・キュレーター）	ソーシャル・イノベーションに関わる人材の育成・輩出
「専門職向け起業塾」（8/4、9/1、10/8）	全3回の講座、受講5人、開業保健師協会と共催（保健医療福祉専門職を対象）	専門職としての仕事の課題解決と社会的起業を後押し
「コラボ公開講座」（6/25～1/29）	「長野ミライ会議」と協働で計10回開催（延べ約450人参加）	地域への貢献、地域に開かれた大学としての認知度向上

#### [コラボ公開講座開催実績] ～理事長裁量経費活用事業～

開催時期	ゲスト(敬称略)
①6月25日	波多腰遥（ツナグノ）、藤原 正賢（株BAZUKURI）
②7月14日	正能 茉優（株ハピキラFACTORY代表取締役）
③7月25日	森田 舞、大口 知子（ゆめママキッチン）
④10月3日	飯室 織絵（1166バックパッカーズ店主）
⑤10月9日	橋本 怜子（鎌倉市課長）、田中 佑典（総務省係長）
⑥10月24日	倉石 智則（株MY ROOM代表取締役）
⑦11月21日	ナカノ ヒトミ（やっこシンカイ店長）
⑧12月19日	村松 浩幸、大手 智之（Fab Lab 長野/アソビズム）
⑨1月16日	児玉 光史（株地元カンパニー代表取締役）
⑩1月29日	柳澤大輔（面白法人株カヤック代表取締役） 徳谷柿次郎（株Huuuu代表取締役）

■H30年度 地域連携相談等件数(延べ)：510件 (H30.4.1～H31.3.31)

(単位：件)

内容	計		行政	企業	教育機関	各種団体	一般・個人
		(構成比%)	(国、県、市町村)		(中高、大学等)	(一社、NPO等)	
1. 県立大との事業の連携	242	(44.4)	123	55	19	33	12
うち相談・検討	192	(35.2)	91	50	18	21	12
うち実施	50	(9.2)	32	5	1	12	
2. 自ら行う事業への支援	58	(10.6)	33	11	3	10	1
うち相談・検討	54	(9.9)	30	11	3	9	1
うち実施	4	(0.7)	3			1	
3. 教職員の派遣(相談含)	68	(12.5)	52	8	3	5	
4. 包括連携協定の締結(打合せ含)	20	(3.7)	11	7	2		
5. 意見交換、情報収集等	56	(10.3)	23	20	4	7	2
6. 視察対応	11	(2.0)	4	1	3	1	2
7. その他	90	(16.5)	15	24	11	19	21
合計	545	(100.0)	261	126	45	75	38
(構成比%)	(注)		(47.9)	(23.1)	(8.3)	(13.8)	(7.0)

(注)1つの案件に複数の主体が関わる事例があるため、「地域連携相談等件数(延べ)」(510)と「表の合計」(545)は一致しない。